

1

1 「手帖」も可  
2 福  
3 角

4 全長  
5 毛頭  
6 風化

2

1 I 突発  
II 方向  
2 ウ  
3 イ  
4 ウ

5 視界  
6 あやふや  
7 イ  
8 工

9 ニつめ  
病院で  
三つめ  
雨が好

10 っ  
とした。

3

1 イ  
2 ② イ  
④ 工  
⑤ ア  
3 イ

4 A・C・D  
(4 順不同・完答)

5 た  
だの  
意  
味  
不  
明  
な  
雑  
音

6 言  
語  
を  
7 「  
今  
覚  
悟  
(7 完答)

8 I 1  
II 2

配点	
1	各2点× 6 = 12点
2・3	各4点× 22 = 88点
〈計〉 100点	

1

1 「帳」を「長」や「張」と書いてはいけない。一部が共通している漢字は、ふだんから意識して書き分けておきたい。

2 「残り物には福がある」とは、「人が取り残した物や最後に残った物の中には、意外によいものがある」という意味である。

3 「角」は、五画目の縦棒が七画目の横棒をつらぬかないように書く。

4 「全長」とは、「その物の全体の長さ」のことである。

5 「毛頭」とは、あとに「ない」などの打ち消しのことをばをともなって「少しも」という意味をあらわすことばである。

6 「風化」とは、ここでは「記憶や印象が月日とともに薄れていくこと」である。

2

1 線①の直前や本文全体から、結(わたし)が反応できないのはボールが見えないからではなく、耳のせいであることがわかる。結の耳にどういことが起こったのかを考えていこう。「雨降りの道路」の場面でも「体育館」と似たようなことが起こっていることから、手がかりがないかと思当をつけてさがしてみよう。本文の最後に「突発性難聴」というおそらく聞いたことがないであろうことばが出てくるが、その前後からこれが結の病気の名前であることはわかったであろう。

2 「声かけてんのに、無視しないでよ」という発言や、先生にしかられていることから、アとイはあてはまるといえる。また、「ボールが飛んできてても反応できない」のだからパスはつながらず、また先生に「チームワーク!」と怒鳴られるだろうから、エもあてはまる。もし聴力に問題があることを知っていれば「声かけてんのに」などとは言わないはずだろう。

3 真紀に対して「耳鳴り(がする)」としか伝えていないことや「体育館」の場面から、結は周囲の人たちに耳が聞こえにくいことを伝えていないことが読み取れる。そういう状況で耳の心配をされたときに聞こえにくいことを認めるのは不自然である。

4 「待合室で待っている」ママが結を心配していることはこの段落のようすからも想像できるだろう。心配してくれている人に見せてはいけなはいのどのような顔か考えよう。三文後に「ふつうに見えるように。」ともある。

5 「紺と空色のチェックの傘」から「透明傘」に変えたことで何がかわるのかをイメージしてほしい。この「雨降りの道路」の場面では、さまざまな音が逆から聞こえて危ない目にあつたということが書かれていた。

6 「あやふや」とは「物事がはつきりしないさま」という意味を持つことばである。日頃から知らないことばやわからないことばはそのままにせず、調べることが大切である。

7 線⑦を含む段落から、やはり耳はうまく聞こえていないことが読み取れる。4の解説でもふれたように、これ以上心配をかけたくないため「聞き分けられない」とははつきり言えないのだろう。

8 お医者さんから「もっと早くに病院に連れてきていけば治っていた可能性が高い」と暗に言われているのだから、そうしなかったことへの後悔は当然あるだろう。また、遅れたとはいえ病院に連れてきているのだから、治ると思っっているだろうし、「遅れると治る可能性が低くなる」というようなことを言われたのだから、結の今後を考えて不安になることはあつても、そう言われただけであきらめると考えるのは不自然だろう。

9 「自分の耳が聞こえにくいと感じている場面」「治療している場面」「治療のかわなく、良くなっていることを実感できない場面」と場面が変わっていることに気がついただろうか。

10 脱文補充の問題はぬかれてある一文にこそ手がかりがある。「となりでママが」という表現から、「学校」や「道路」の場面にない。よって、【中略】より後の場面から適切な場所をさがしてもそう。「ほっとした」のはどのタイミングだろうか。

3

1 直前の「よく聞くそのような考え」が指している、直前の「小さくなくいかしら」から、「ラクに素早くネイティブ並みのレベルで身につけられる」ことを期待していることがわかる。本文のここより後で、それは間違っていると述べられていた。

2 (2)の前後では、子どもが母語を学ぶ際に必要なもの(時間・努力・環境)が並べられているので、(2)には、「そして」がはいる。「だから」も「すると」も順接の役割を持つ接続詞だが、「だから」は強い因果関係を、「すると」は時間的な順序を特に示すといえる。(4)の前後には時間的な順序が、(5)の前後には因果関係があることを確認しておこう。

3 線③の直後の「オーディオやビデオを使ったりしてきた人」たちががっかりしたり怒ったりするということは何を期待していたのかを考えよう。

4 Aの直前に「日本語のセリフを聞いてもらう研究」とあるのだから、Aには「日本語」がはいる。日本語のセリフを聞いてもらうとおうとしたところ、「うちの子はダメかもしれません」と言われ、さらにその理由も述べられていた。「家ではBでしか話しかけていない」「お父さんはCしか話せないんですけど、この子が起きてるときはほとんど家にいません」とあることから、Bには「英語」、Cには「日本語」がはいる、よってDには「日本語」がはいる。

5 ⑥の直前に「なじみのない外国語の音声は、赤ちゃんにとって」は「日本語」がはいることとあることから、本文中で「赤ちゃん」「外国語」について述べられているところを優先的にさがすようにしてほしい。本文の十五行目～二十一行目に注目できただろうか。「ふだん耳にしているのが英語である赤ちゃん」にとって「日本語」つまり外国語は、「雑音にすぎない」とあつた。

6 線③を含む一文の「この研究の話」が指している直前の二段落、Aの直前にある「赤ちゃんに日本語のセリフを聞いてもらう研究」、そして線⑦の直後にある筆者が受けた質問の内容から考えてほしい。赤ちゃんが日本語(母語)や英語(母語以外の言語)をどう身につけるのかを研究しているといえるだろう。日本語や英語すべてを含んだ表現をさがしてほしい。

7 線⑧の三～四行前に、言語を身につける際に必要な覚悟が述べられていた。「覚悟」ということばがここより前に出てきてきていることに気がつけば容易だっただろう。

8 I 「子どもにはいつから英語を聞かせたり習わせたりしたらいいの」という質問に対する答えから判断できるだろう。

II 本文の十五行目からの段落で、赤ちゃんが「ふだん耳にしている言語」をある程度はわかっていると書かれていた。以上